陸軍歷史

三

勝
2
3

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

陸軍歴史巻三

陸軍創立之端緒三

目録

一 高嶋喜平外國交易ノ建議
一 交易仕法ノ大畧
一 高嶋秋帆ノ墓標
一 英艦ノ應接

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

一　杖倉勝明ノ書牘

一　水戸老侯江川ノ病ヲ訪フ

一　阿部正弘江川ヲ弔スル和歌

一　一方之長城

一　高嶋氏先鞭ノ功

海舟書屋

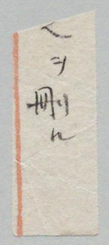
ヘヲ刪ル

陸軍歴史巻三

陸軍創立之端緒三

作恐謹而奉申上候
去ル卯年以来度々異國船渡来仕専ら交易筋
奉願當年之儀ハ亜墨利加魯西亜等浦賀長崎
へ渡来仕熟ハル交易奉願候風説ハ申座候處

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3



国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3
挟み込み物

一　杖倉勝明ノ書牘

一　水戸老侯江川ノ病ヲ訪フ

一　阿部正弘江川ヲ弔スル和歌

一　一方之長城

一　蔦嶌氏先鞭ノ功

海舟書屋

陸軍創立之端緒三

一　右恐謹而奉申上候

去ル卯年以来度々異國船渡来仕専ら交易筋
奉願當年之儀ニ亜墨利加魯西亜等浦賀長崎
一渡来仕熟ト交易奉願候風説ニ依座右

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

右恐公邊より被為在御憂慮候由儀と奉恐入
候然る處御臺場御築造筒御鑄造等始め海
岸御防禦御懸り被為仰蒙候段誠に以冥加
に被為叶候儀と存恐被為盡誠忠候者此
時に可有御坐儀与奉存候隨而一失之非一國
之存亡に係るとも可申哉實に御大事と奉存
候右に付ては微賤之私式愚見奉申上候も身
分を出過恐入候仕合殊更多年幽蟄中只々恐
入相慎候外世間之事情當時之形勢も不相辨
候に付御神策之御模様御内慮奉伺度奉存候

海舟書屋

得共御機密之筋御洩し無之候ハ勿論顯然仕
且奉伺候儀も奉恐入候間差扣可申哉に候歟
候得共世間之風説傳聞仕候處二三月之至り
候ハヽ戰鬪相始候なと申觸安堵不仕哉之由
諸向兵械火器新規製作有之候ニ付相違無之
候に付巷説も每據處勿相聞左候時者國家
之安危に係り候儀一大事ゟて心中不安其儘
差置候而者無本意次第不奉存候得共更に御
取用ひも相成良法を申上候ゟも無之多年紅
毛人共ゟ應接仕右説話中餘事ゟおゐて西洋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

之情態聊お伺ひ候ハ有之常談ら係ら候庭ハ
得共還而於此中玩味可仕候ハ可有之哉に奉
存候間其一二を擧候採擇ハ相備候迄ら候に
候庭ハ隨而交易勿論のみら候ハ候庭ハ、
干戈を不動御深遠之御籌畫とハ奉存候得共
自然兵端一度相開外患有之節者内冦必生候
ハ古ら有之候ハ候庭ハ間敷候得共彼を我術中ら陷
候ら申候者有之間敷候得共彼を相免し候様有候庭ハ奉存
し生民塗炭ら禍を相免し候様有候庭ハ奉存
候間忌諱ら觸し候ハ可有候哉於其設者深

海舟書屋

奉拜入候得共蒙御許容心中不遺左ら奉申上
候

一蘭舩入津之上諸荷物取調相濟候上ハ直組と
相唱候儀有之私共之内三四輩立會會所役人
其外右ら携り候役ら一同出島ら出役仕加比
丹廣間ハおゐて直組為致候仕來ら候處
天保度ニイマンと申者加比丹役ハ轉候砌ハ
候庭ハ右直組御用相濟候後同場所ハ大幅之
三輿地圖を懸有之候を相尋候處是ハ新鐫ら
して當年初而持渡候庭ハ吉相答右ら付通詞申聞

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

候ニイマン伐者諸國ヲ航海仕諸國之風土委
敷語シ嚴在折ニ承リ候處地球中ヨリ稍ヤ異
なる國ヲも有之孜旨等申ニ付私共銘々地圖
を指し相尋候處ニイマン其風土概略ヲ答申
孜然る處圖中萬里長城有之處は漢土と申伐
は相無居候得共何レ之國ヲ孜哉と試ニ問ニ
處ニイマン答て支那也と申ニ付間支那ハ如何
成國ヲ孜哉と相尋ニ孜甚大國ニて産物多
く土地豊腴ニして人は癡鈍也と相答ニ孜武備
有哉と相尋ニ處武備はあり隨分盛也と相答

海舟書屋

候依之又々相尋候ヲニイマン前ヲ申所にて
ヲ歐羅巴國之中ニて軍艦を仕出し某之國は
某之國ヲ掠略して所領とし或ハ屬國となせり
なとの事あり然ルヲ唐ヲおよおゐては歐羅巴
は勿論諸州廣東ニ諸商館を建各國彼ヲ服從
して彼か其制を請るルのは癡鈍之國ヲいへ
とも大國ヲして武備盛なるを以侵掠する事
能もさるをのと相尋候處ニイマン答申ヲ
唐國を侵伐して我有と致ル事容易き事
ヲ候得共三ヶ年ヲ不至して歐羅巴ニそのと

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

なく我像を相違無之候得共餘り大なる過き候
取比と申なき之殊なる國大なるて人衆夥敷事
は此國なる限り候儀みて既なる命之者咬喘吧
え參り住居致候者計りも幾万なる数なる及申候得
共是或は人別聊相減候と申像にも無之既な
昨年咬喘吧住居之唐人共國法不相守徒黨致
し乱妨不及候間無餘像鉄砲を以數百人打
殺候處右にて平穏なる相成候得共唐國人別之
像なる付其儘雖捨置唐國なる使者を立右之次第
申述候處唐國迄答なく其地なる參り致住居候

海舟書屋

者ハ勝手なる取扱可申旨相答候に付其後唐人
共なる申渡候處大に相恐れ神妙なる相成國
法相守候樣なる相成右樣人別夥敷候得共唐國
を掠略致候儀ハ易き事なる候共全候處永久相
保候と申儀右相成候而ハ和蘭國抔者一國之兵
を移し候共尚不足有之なく歐羅巴三四ヶ國申
談候而配分致し領地なる仕候時ハ永遠相保候
儀相違無之候得共此國なる諸國なる田畑なき
ものみて此儘差置有無を交易仕候而已なる利
を得國用を弁し候方眞實皆國民を養候為之

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

事に候庭段唐國ハ大國也といへ共之を攻取
段容易き事之候哉是等と相答申候是当私一人
承り段儀之れ無之同役者勿論通詞通無仕候
係に付詰合一同熟れも承知仕候儀不申候
右様大國を併呑仕候に三年之不至抔と申様
不言下之相答段儀如何可有之哉と格別心を
留候儀之れ無候哉其後三四ヶ年を歴唐
國におゐて阿片一件勃然と事起り遂に戦
争に及候次第右風説ら候哉唐船入津ら時之
私儀取締申奉行所へ差上来候儀に候哉

海舟書屋

唐人共儀革生下輩之者といつとも自國之外
都而禽獣無智之者ら様に心得軽蔑仕候間迚
も敗軍仕候次第申出間敷と奉存候格別之
大敗ハ候哉時ら申立候風説水陸共一戦之勝
負無之都而敗衂而已に候哉固ら船主共
儀者乍浦近隣蘇州邊住居之者之て廣東迄数
百里を相隔乍浦ハ蘇州之相隔り候僅之十
里程ハ候庭段得共戦場之出候その共申儀之
義無之何れも風聞を以申出候之付實否ハ不
相分候得共紅毛人入津ら上申上候風説を以

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

相考候時ハ敗衂におゐてハ疑ハ無之候ハ
畢竟大砲ニ候ハ都而火器を為ス本ニ坐候清國者
明を併呑仕候程之儀ニて戦場火器を相用火
器之戦闘ハ利用多き事も相心得康熙帝自製
之大砲も有之候程之儀ニ候ハ底深き明之勝
候を砲術之極と相心得太平ニ至候てハ研究
仕候ものも無之候ハ歟イギリス之砲陣ハ敵
対する事不能遂ニハ敗極り和を乞金を出し
國削られ候ニ居候を乞候ハ同様之儀ニ候ハ國體
を失ひ申候然ニ皇國大砲之術古文録朝鮮

海洲書屋

の役初而相傳候後無幾程昇平ニ相成昇平中
に相開き候ニ付未た戦場実地の檢驗無之
候ニ付而ハ正法と存候ハも諸藝ニ而も有之候
而正法ニ相違無之術ニ有之候ても戦場之便
否ニハ會著不仕候ハ擧て申候時ハ譬ハ拾
匁筒を重寧に拵へ目込ニ仕候而寧物にても
打潰し候ハ如何ニ候ハ正法ニ相開候得共一人
一術とハ違ひ候ニ付戦場之得失無之研究ニ
而ハ不可然候ニ付而ハ戦場之得失を研究ニ
而ハ不可然候ニ付而ハ戦場之得失を研究ニ
且又候ニ候ハ此度三匁五分の小筒ハ足軽
拾匁筒以上ニ士ニ可打筒と定拾匁筒を侍筒

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

採唱被得共先手呂軽よこそ遠きよおひ被
利用多き筒不相用して不成侍共鎗剣よ至り
打被心得小西生被雲筒よ名分有之被
用之功有之被譯よ小西生被雲筒よ名分有之
ル攻究ふ是故ニ儀よ小産候角場拾五間角之
中外に而已屋宅仕或ハ無用ニ遠きよ及ハせ
被儀を主と仕皆砲術不開ニ所より彼に侮を
受被儀よ小産被右イギリスに對し被時は矢
張清國ニ火器ル同様ニ儀よ小生被不顧身分
先年愚意申上被程ニ儀よ小産被雲右ニイマ

海州書屋

ン言下よ相答被砌は於唐國阿片禁令も出さ
ゐ以前廣東騒動聊其兆ル無ニ時ふ小産被雲
悪くニイマン相答被事ふ相洩被儀無ニ候
おゐて相驚き被者ニイマン兵事よ心懸被者
み ル無之被雲何故勝算を定免被答ふ小生被
ハ甚不審よ奉存候全西洋ニ習俗常ニ無事之
時といへとも諸國ニ風にニり勝を制し被理
を考究仕被ハ決而無ニ候ル有之ニ無ニ候ニ
被而ハニイマン言下に相答被儀よ有之間敷
夫よ付相考被ハ本邦ニ儀といへとも其長

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

ゟ乍雫不従ひ如何成工夫仕居候哉も難計短
兵接戦ゟ長ㇾたる國と存候節は其長ずる所
ゟ就而砲陣陣制も必相改勝算を採り候を
専一と仕古法ゟ固着不仕候而於本邦も深く
被為運御神算候様有之度奉存候ゟ坐候
時者未ㇾ万全ゟ師とい相成申間敷砲陣大
隊ゟ對し勝算有所迄詳明ゟ仕候上ゟ無之而
は合戦相成申間敷奉存候唐國ハ大に過候而
よき取比と申に無之ことの説ゟ至り候てハ深
く可考事ゟ奉存候
一清國者貳百餘年ゟ昇平みして武備廢弛て
敗衂を取候様識者申候に候處候得共決而左
様ゟ候ゟハ無之候而前明の政弊其證鑑も候處
候ゟ付別而武備ゟハ心を用ひ懈候ゟ無之
候而御案内被為在候通天下國家之護衛とし
て所謂八旗有之始ハ四旗を配列し重るに又
四旗を合せ八旗と相成八旗ゟ満州八旗蒙古

八旗漢軍八旗あり合せて廿四旗と相成り旗
毎ニ都統官一人副都統二人あり是を一旗と
棟梁職と仕事ら旗下ら軍人を治免営ら免
是か下に参領副参領ら職数人有之皆都統副
都統之政令を聞て又其下司佐領ら職に通達
して普く旗下ら軍丁ニ令を行ひ満州旗之佐
令は旗毎に七拾人八九拾人蒙古漢軍ニ佐令
は廿餘人ら四拾人ニ至る佐令一人ニ令せ
る軍人三百人是を一率と仕満州蒙古漢軍ら
廿四旗を以二京拾八省ニ分別仕放而総軍八
拾餘萬人と申事ニ候此數ニ初清ら事ニ
て當今は幾百万の數ニも及候由文字ニ不及
申文武共ニ盛ニ候ニ付て武藝練熟ニ者は文
官同様及第仕候由ニ候武藝ニは藝術ニも依
程骨折候趣ニ候ニ付此儀ニ依而本邦ニ
て諸侯方甲冑を著調練有之候ニ付是迄家及
候ニも無之候ニ付當清國ニおゐてニ三歳ニ
一度大閲を執行ひ候ニ而皇帝甲冑を著け
刀を佩ひ王公大臣八旗之将士軍丁ニ至る迄
甲冑を著け驍騎護軍前鋒火器營等之諸隊有

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

之陣をなし金鼓旌旗砲等ゝ相圍は勿論進
退周旋する事九度第十度ゟ至て吾礮をつ
らね等しく發し更ゟ問なし此時金をならせ
を即止む是ゟ振旅ゝ諸手績と相成申候是
等は年來相欠候儀ゟ清國ハ昇平と以
いとも右様心懸專ら殊ゟ邊竟ゝ戰鬪は度々
有之候ゟ付急ゟ候ゟを聚ゟ國中ゟ戰爭みは
時ゝ戰捷も有之候ゟ付陣營戰法皆是にて事
足候ものと相恃油斷仕猶諸州於廣東交易仕
候者を利潤ゟ爲ゟ清國を尊敬仕候ゟを聖人基

海舟書屋

業之國と申殊ゟ漢滿二國を併せ世界中ゟ大
國を恃み他國を蔑視仕四夷ハ蛮臣服さると
相心得外夷ゟ強盛なる事は更ゟ心付ゟ不仕
林則徐國威を振ひ候多免苛刻之取扱仕候處
是ゟり兵端を開き居なゟら降を乞候ゟ全我
強を恃ゝ油斷ゟり生し候儀ゟ有之趣然る處
清國の敗を嘲候者ゟ有之候ゟ得共上皇帝を始
免孫昇穰道韓信諸葛之徒歴代名將名臣ゟ夥
數出候事ゟて當時ゟ清朝といへとも文ゟ文
人有之ゟとく武ゟも亦同樣練達ゟ者ゟ出候事

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

ふて陣営ニ制日月星辰吉凶ニ観法に至る迄
悉く練熟仕らさるは無之我兵撃ル彼を祖と
仕ル處當時の兵家同様鈐鞘之秘ヨ通ル其
は彼ヨル勢有之迚は無て傳聞ル仕ル處清
國脆弱之艦艦古制ニ城堡火器は佛狼機將軍
礮震天雷地雷噴筒火桶等之類火縄鉄砲に三
倍五ヶや四倍の鳥銃若ヲ以堅實厚大成戦艦
に猛烈なる火器を備へ陸戦ヨ於節制精明錬
熟のイギリス其剛敵を引受三ヶ年の大戦可
也にも防戦仕ル儀古大國ふて兵数も夥敷故

海舟書屋

のと感心仕ル我兵数ニ輙ふて其衆寡如何
可有哉笠不相解且清國之弱兵と違ル時ヨ
共古戦之趣を以相考ル時ヨ驍勇之士といへ
とも火器ニ為ニ力を施ス處なく敗軍ヨ相
成ル儀ニも有之ル處當今ニ火器ヨ至り候ふ
古と違ひ奇功弥究便捷猛烈ニ火器と相成候
効力大ヨ違候所ヨり陣制戦法ニも出ル係ヨ付
古へ戦場ヨ用ル火器とは比較難相成然ル
我五十騎一備を以申ヨ於時ヨ実戦の数に至り
候ていハ従者迄凡千人ニも及ひ可申ニ等ハ日

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

日糧食を費すに至る雲にして戦ふ者い半を過申
間敷候得共先つ敵と対し合戦相始候ハヽ此
中先手三四艘より鉄砲漸三十挺のみにて弓廿
張有之候てもいまた用をなし不申彼い千人
千挺の鉄砲にして無用之手明と申い無之し
て彼の打出し候歩数我打出し候歩数とい長
短大に違ひ有之彼短用と候候雲ゟても我の
鉄砲いいまた効力有所ゟ至らす彼の打出候
て我ゟ充分害を受候節ハ弓い勿論鉄砲も以
また用をなし不申加之三十挺の鉄砲と千挺

海舟書屋

の鉄砲と者孰れの害を受候事多候弐長柄騎
馬殿備ゟ至る迄も手を空しくして徒ゟ彼の
標的と成の如く被存候変制勝之法有とこそ
可申候得共小筒並弓等其及ふ雲ゟ力は定り
たるものみて別ゟ秘術は無之事ゟ候哉候間
可改者相改不申候而は我ゟ用る雲と彼の用
る雲と強弱遠近遙ゟ差ひ候に候座へは
勝敗如何ゟ心配仕候且又魚鱗鶴翼如何成厳
陣を布候共敵間頃合宜敷所ゟ而地中ゟ湧
出候事ゟは難相成小筒効力ある雲迄進前致

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

し陣形をもつて中より右味方を攪し申候ハヽ
少被存候又拾町位より真しくらに駈込申候
ハヽ雖相成駈込申迄呼吸相通り申而は充分
之働者出来間敷候間先手小筒より打して攻不
申而ハ不相成候ハヽ奉存候水戦ハヽ如斯もの
にて前中後両翼等船列正敷陣形をなし中軍
の指揮ニ従ひ進退聚散自在ニ相成正奇無端
相進ミ共敵間頃合宜所に而水中より湧出申
術ハヽ無之いつれ拾町廿町より漕出ス申候而
ハ不相叶候處彼の船上より打出し申玉は先

海舟書屋

手の船ハヽ戦を始候と申候定法者無之前後左
右之差別者無之手ニ入候を以打出し候時ハヽ如何
成良陣ニ法有之候而ハヽ陣形い皆無用之物と
相成中軍先ニ沈没致し候時ハヽ令を下し候者
ハヽ無之と申ものゝ而堅実の船放射熟達之者
数多無之而ハヽ夷狄との水戦ハヽ雖相成受当奉
申上候者所謂釋迦ニ説法と可申候得共諸向
悪く釋迦ニ相成不申候而ハヽ勝算難計奉存候
警ハヽ本邦之兵を向け候とも清國之差向候
軍勢ハヽ可有之左候時ハヽ我ニ士刀鎗ニ術ニ熟

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

し勇氣にして奮戦可致水戦よは力を施し
霊魚之に付一切の器械相揃不申内は利を失
ひ候迄よ而合戦如何と心配仕れ三艘四艘の
船みは無之候間萬と御工夫被為在度奉存候
一豊臣氏征韓之役は朝鮮の兵を以嚮導となし
明を併呑するの趣意より而朝鮮もし命を拒は
撃滅して遼東より直よ北京を襲ひ明を奄有
し其土壌を割て諸侯功臣よ予人是を算る事
已よ熟もり雖き事よ非ずそとの事のよし朝鮮
八道よ獨みよ西南四道之兵を八軍となし水
陸三軍指五萬人進軍六萬を以應援よ備へ東
北三道之兵を以自衛と士卒を養ひ十年を待ば
平以来戦闘無止時數百年打續き戦闘よて元
亀天正よ至候而い弥練熟精鋭之兵と相成候間
湖以来尤も強盛之時小児迄朝鮮は代り唐
國よ服従仕候事なく兵福無之國よ而実
よ羸弱なる兵よ候座候間明よ援兵といへとも
貳百餘年よ昇平にして政を失し衆心離散よ
時よて遑寇之合戦も不得共戦闘不練之
弱兵壊垣を推の如きものよ候座候間我精鋭練

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

熟之兵を以て彼の太平備なき弱國を伐つ故
不戰して潰へ守るを棄て遁走する數ヶ條畢
竟一蜂して朝鮮を從へ得共是い我至極
強盛之時を以彼れの至極羸弱之時を伐つ故
に候ふ庶幾くは樣練熟之兵に有之候得共朝
鮮之將孝辭臣大砲を以我船を打碎きつに付
本多康親ハ是に死し脇坂安治等苦戰し其衆
をこふて退き陸軍と合つ策應不和成つ石田
三成等馬灘ふ破れ蜂須賀等龜尾浦に敗北
明之援兵來り候而ハ李如松ハ器を以平壤を

海舟書屋

攻つ第一日之合戰ふて所々臨り死傷甚多し
小西行長守を棄て即夜潛ふ衆を率いて遁走
致し毛利秀元加藤光泰細川忠興等七將晉
州を攻て皆大敗致し候後ハ我將菅正陰
碧波亭下ふ戰ひ孝辭臣大砲を以て乘り攻正
陰敗死致し島津義弘ハ壘を築つ雲數壘攻落
さし彼れ新塞を攻るふ至てい木砲を以大門
及城墻を摧き我城兵殊死戰致し至極苦し相
成つ雲砲炸け煙焔四方ふ迸り明軍大ふ乱つ
折柄甘機ふ臨ふ衝入つ河漸く勝軍ふ相成つ

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

得共是は明軍火器之取扱方其拙き故ら俄ミ
て左も無ら前ハ敗軍共可相成故此外五ミ勝
敗心有之形勢刀鎗ら働き朝鮮ら援に過なる
は有之間敷戦場練熟ら将士一卒といへとも
弱卒は無御座候忠勇を盡し奮戦致候得共前
後七年ら合戦朝鮮より被拒候迄ミ明境ミ入
事不能候遺憾之次第ミ御座候今清國は漢満
二國を合せ其頃ら明ミ較候而は一倍ら大國
に相成居候をイギリス之を攻免三年ミ過候
ら居なから降を乞はしめ候は何ミ長ら
海舟書屋

ハは如斯勝を制を引我國ら征韓ミ較候得は
優る所あるかを以て相考候ハ、刺撃
之術ミ長ら候て特ミ難お成火器ら精器と
練熟ら者多く無ら候而は昔今東狄ら合戦ミ
は甚覚束奉存候豊臣氏は天受ら雄才大略に
して ニイマンは凡庸の賈人ミ候得共永久た
もちかねき説ミ至り候而は豊臣氏ハ容易ミ
らさる儀有ものゆく奉存候
一慶長十四年己酉五月有馬氏黒船焼討の挿を
以東狄ら船容易ミ焼討出来候者と相心得候

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

像も甚料簡違ふ様ゟ奉存候右入津仕候黒船
去亜媽港仕出之高船にて本邦を襲ひ来候船
ゟも無之候間武備ゟ手當国ゟ無之候外國
之風とゝて高船といへ共海賊を防くな免石
火矢少ゝ備付居候事ゟ候座候共須有馬氏
ゟ異國之仕出ゟ船洋中に而破損所有之候
に付亜媽港地ゟ寄せて修理相加へ候御蛮人
と喧嘩仕一船乗組五拾人悉く殺され候由然
る處其後長崎ゟ入津ゟ亜媽港船先ゟ喧嘩之
着乗組居候と申候彼是ゟ及ひ討取方之儀公邊ゟ

海舟書屋

御願ゟ相成候處一船ゟ内ゟは眞ゟき者ゟ可
有之候間加比丹を捕て推問あるへしとの沙
不知ゟ相成候處其後黒船之洩聞へ恐ゟまき
れ逃出候を有馬氏聞付兼而用意ゟ致居候儀
ゟ付兵船並焼草船数百艘を出して追掛候處
黒船ゟ風なくして逃ることゟ不能勝敗を決せん
との趣意ゟも候哉砲を入追船を待受一戦ゟ
及ひ逸にい定例之通彼ゟ風ゟ討死ゟ而船中
之蓄候火薬に火を點し討死致したる事ゟ沙
座候黒船人数い纔ゟして有馬氏ゟ死傷者千

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

餘人ヲ及テ由全ク高麗ヲ為入津仕不憚ル儀
ヲ遇ヒ恐怖仕逃出テ信ヲ事ヲ佛産ヲ亜嗎港
ハ勿論西洋ト云ヘ共其須臾ヲ儀ヲ航海等砲
術ヲ都而不相開時ヨリ殊ヨ只一艘ヲ商船
ニ而焼討出来ヲル彼ヲ焚焼致ヲ故右様戦
寄ヲ儀ヨ付焼討ヨト申儀者出来ヲ儀無之紙
上ヲ論色ヲ佛国ヲ一艘之軍艦ト云ヘ共我漁
船等ヲ小船ヲ以囲繞致シヲ其小船ヲ乗沈め

海舟書屋

走出ヲ申候ニ付焼討之手段ヲ全ク専用ヲ事
ト相成申候ヲ今ヲ南塘ハ水戦法ヲ倣ひ小船
ヲ以大船ヲ囲繞シ囲攻致シヲ積ヨ佛国ヲ
共南塘ヲ戦法ハ倭寇ヲ大船ヨ大礮無之ニ對
シ候儀ヲ出ヲ策ニ而彼ノ火砲ヲ技拙き
ニハ共間近ク接シ打破ヲ後ヲ出来ヲ得共
当今ノ西洋軍艦ヲ三百目五百目ノ筒ニテ打
洞ヲ事難ヲ成此ヲヲ打筒ヲハ彼ヲヲ打
ヲ筒効力烈敷候間いまた近寄ヲ申内被打砕
可申候且又進退難ヲ出来船ニ候ヲ小船ニ焼

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

草を積異船ら取付候儀も可仕候得共海軍に
は帆を掛進退自由ら働も仕兼間不利と存候
節ハ疾く洋中に退き候事と奉存候兵家焼討
之良策有之候得共空船偶人ら對し候而ら其
法行ハれ可申候得共彼も智慧ありて大砲始
め諸防守之法も要候而容易に焼討も出来
間敷異國船襲来候ハ一二艘ら船ら限り候様
存是ら出候兵家ら戦器ら備坐候間事ら臨
ら候而ら大なる違ひハ相成小事には有ら間
敷黒船ら一揆を以恃と仕候ハ甚迂なる事の

海舟書屋

様ら奉存候彼ら軽侮を受候儀も彼にあらす
して當我なある事ら候事を間何ら穿鑿行
届戦具相揃候上ハ英斷ら座を採仕度奉存候
一寛永十四年嶋原一揆ら儀ら大坂城を去る
事僅に廿四年ら候て瘡痍未癒共可申哉然る
に百姓二万千三百餘人内浪人頭立候者指五
六人相加り女子童一万八千九百餘人都合四
万二千餘人ら候得共相働候若い二万餘ら百
姓に候ハ追討大将御名代には板倉内膳
正殿を始として細川有馬鍋島黒田小笠原毛

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

利水野寺澤松倉等九州之諸侯皆武功之大將
にして其臣も實戦を経たる者共も有之其勢拾
六万餘人にして合戦すること都而利を失ひ同
十五年正月元日三箇所攻を節を寄手惣勢廿六
万餘と申事ゟ城内騰正殿ゟい大坂御陣
ゟも有名之佐方ゟ焼出て憂賊城ゟ櫓下迄被
押寄鉄砲ゟ為ゟ戦死ゟ相成手勢仕れも討死
致して浮共校て事不能松平伊豆守殿下向ゟ
後も一揆無ゟ二万餘ゟ百姓勢を伐ること廿六
万餘之大軍を以攻て浮共二百餘日落城ゟ不

海州書屋

相成然ゟ逆賊兵糧玉薬も盡果て最早籠城
之術計無ゟ愛か討死と相定て故落城ゟ相成
て浮共若兵糧玉薬充分ゟ蓄て時い急に落城
ゟ僕も曽聞東被存て寄手ゟ討死者三千人と
申事ゟて浮共内実者其數難計趣然ゟに西洋
人い我皇輕百姓町人等に比し蔑視仕て者も
有之由蔑視仕ていい宣敷庶て浮共此為ゟ手
軽に相心浮防禦ふ行屆而も可有之奉存て東
狄を百姓と見て而も此位ゟ兵力は可有之殊
に海中ゟ堅城地形を擇ひ險ゟより進退周旋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

自在を得猛烈之火器完全相備防守之法も精
究仕居候ニ付容易ニ乗入短兵急ニ接戦仕
候も其儀不叶蒙古並ニ朝鮮船なとゝ類ニ
は無之候間是等之先例を以勝を制候様ニ存
候而は所謂杓子定木ニ相当りか様ニ存候而四
五艘之船ニ仕候而も島原一揆ニ而相優候ニ
と奉存候左候時は格別厚御用意等之而は勝
算如何と心配仕候疆場之責ある者は據実以
対従實力練とこそ申候ハヽ本邦ニ天然之險ニ
して四面滄海を環らし暗礁四方ニ逆り遠外
浅砂異賊近ク事を不得人皆勇悍劫捷刃利堅
甲剌撃之術ニ長候なと東ら讃称仕候ニ而
説之通りに候ニ而時者情とも可相成ニ而
甚齟齬仕難信儀ニ候ニ而
を招候楷梯とも相成候申越候ニ而本邦を尊
敬仕候ニ而ハ当然之儀ニ候ニ而
候儀ニ而明人之ニ而下ニ点検等をなし候ニ而
悦しめ而て懈を貪る是故ニ其勝往ニ敗端と
成と申たるなく諛詞を献し上を悦いし免譬
を取候儀を只ニ掛候者昇平之ニ而風ニ候ニ而

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

若浮共國家之安危に係る事に存候い実に據
りて申上度ものゝ如何せん累勝之辛といへ共
之を駁する未勝之信なと申候位にて如此大
切之心を用ひ勝軍とも相成の申憂只東狄を
弱きものと而已心得させ若一國油斷を教
候事之相濟候依之防禦手當行屆兼候場合も
而有之候に而卒然之変有之候而者如何と
懸念仕候東狄之強盛を恐らしめ候而者人心
先ッ怯不戦して敗るなと心得候共是は僞
偉の勝を奉候道理にて若意外に出候儀も有

海舟書屋

之候節ハ敗遁仕候外無御座候ヶ様成儀は其
時之臨み一時之權にして平生無事之日之示
方實にて者矢張其強盛なる者に出る様事ら攻究仕萬
をしらし免候而其右に出る様事ら攻究仕萬
全萬勝之國と相成候者尚有司之鼓舞に而有
之候と奉存候浮氣之勇華法之藝者之時と雖
相成候間實心之勇實法之藝に相成候様所希
に候也
一本邦者獨立之國に候に付若彼を防き候者
彼を防き候具を設け彼に十倍の兵力無之而

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

八安心難仕本邦の風氣として性命を惜み着
は無之候に付事有に臨みては討死致し候
と而已各覺悟仕居候得共婦女子も怒に觸れ
身命を捐て候に付戰場へ臨み性命を惜み候
者は無論然る處命を捐候て易き事にて
産を得共性命を捐候とて勝軍へ相集候事に
益難極只々外夷ども國を破奪申候様悪
ら力を盡候事へ候上は親ゝ長へ死する
異なきゆへは所謂乳犬犯虎伏雞搏狸鬪心あり
といへども之へ随つては死を徒へ我衆を無肉

海舟書屋

にすと申たる如く戰艦諸器和揃候上は思召
へ候處戰有候節夜毎被仰候ては得共未た
相整不申候ては臺場のみ候處陸地へ長
蛇へ陣を布き四藝練達へ勇士相守候共異船
へり打出候彈丸共堅陣を打碎候時は一頭両
尾相應候儀も和叶何程勇士空拳を握り候
迚へ候處是迄へ利害難通差懸候事故
合戰へ專へ業術なと最骨折出精致すもの有へ
悪敷事には無へへ得共場合違ひ候にて用
意整兼向も多く有へへ未た水軍へ戰器相揃

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

不申候間勝敗如何と心配仕共只今ら急務と
仕共靈ら大砲に依産共靈南世話ら依而
大砲者出来仕共間精器ら依産共而茂精藝之
者甚少く右様ら像も連續可仕扶弘安ら蒙古
は戦捷と申には有之間敷明並朝鮮亜媽港
人には我神武を試共浮共五大州ら内國ら強
弱有之共靈歐羅巴人とは未た一戦ら鋒を交た
ら儀無ら共間朝鮮明ら例には參りかたく、我
あ一を以彼ら十よ當ら申候者我か精鋭之
兵を以太平韓明之弱兵に對共故に依産浮

海舟書屋

共今我の太平不練ら時を以彼を伐とも古
之例には難相成況や西洋人に而は水陸ら戦
法依業内通之儀に依産間何ら為も南一戦
ら儀者四五年は依見合依産を校伏而奉祈共
事に依産共

一阿蘭陀人酔中或者憤激ら餘り等事に觸共而
申ら儀を通詞承り内ら噂仕共後も有之取
留共儀にも無依産浮共其情を察し共時は
我ら彼を侮共如く彼も亦我を侮右之内には
諸國共憤怒を懐共様子も相聞共間兵端一度

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

相開ケ時は諸國も加勢ら兵を出ス儀を彼國
ら習にて兵端相開ケ儀を布ケ事ゟ相開申ケ
間誠ゟ活大切ら活時ゟ活座候
一来年渡来ら〻アメリカ船一戦にて殲滅致し
提軍に相成御武威ゟ畏縮仕再び覬覦之情を
断ケ様ゟ有之ス得者布ケ所に活生ケ得共彼
等敗衂仕ケ節は諸國ゟりも加勢之兵を出し
ケ儀ゟてアメリカ一州に而も仰山なる大國
ゟて元来イギリスゟ多ク開かれケ由ゟ活生
ス得共近来に而は却而イギリスにも敵對仕

海舟書屋

ス程之強國に相成候由此上ロシヤイギリス
等諸國ゟも軍艦を差向本邦所〻を衝ケ時は
追〻手に餘りケ様に相成我武勁提勇悍とい
へとも諸侯兵數も限り有之ス〻は衆寡敵し
難きに至り可申就而は連年戦闘打續ケ儀ス必定
に活座候左ケ時い鉄砲石火矢相揃ケ共第一
懸念仕候は國中ら火薬に而一ケ年ら戦闘に
者足り合申間敷候近来諸國ら振合は不相心
得ケ為共隣國に而硝石製法所一ケ所一日ら
煮上高一日四五貫目位ら物に相當り是亦年

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

海舟書屋

分無間断丈高ク上リ候と申にも無之候殊更
諸方にて稽古ヲ為め日々打捨候高も不少
各國硝石製作致し候と申儀にも無之候間
硝石甚乏敷奉存候然ル処諸向鉄砲鑄造有ル
国ヨリ用意濶ク可有之候得共滑共砲数ヨ較候而
者火薬益足リ合不申儀と顕然仕候是は海防
第一ニ品ヨク候産候間蘭国抔に而者過分ニ火
薬貯へ平日硝石ヲ拵入候硝石過分に出来
仕候得共猶硝石代料引合候て買取申度旨申
出候程ニ候に付先砲戦ニ次第ハ御案内通
ニ候に付先砲戦ニ而相懸彼ニ弱ヲ示
し御國威相衰へ御恥辱ニも相成候間候
得共兵道は只勝候を要道と仕候に而失迫
之遷速ハ時ヨリ候儀ヨ付戦期ヲ延候ハ御
儘奉申上候
一一戦も無之候ては彼ヶ兵威ヨ相懼彼に弱ヲ示
し御國威相衰へ御恥辱ニも相成候間候
得共兵道は只勝候を要道と仕候に而失迫
之遷速ハ時ヨリ候儀ヨ付戦期ヲ延候ハ御
儘奉申上候
硝石相備候ヨ付可也ヨも御蔵
年にては多分ニ硝石丘拵立候被仰付置ニ三
便利ヨ随ひ硝石丘拵立候被仰付置ニ三
而申上候迄も無之候に候に付先砲戦ニ次第ハ御案内通
之儀に候間候得共兵道は只勝候を要道と仕候に而失迫

籌畫ス一ト奉存候所謂避其鋭氣擊其惰歸不
戰而屈人兵者ナリ是古キ事ヨ此度ノ滞兵是
等ノ戰場ヨ臨ミテハ一ツトシテノミ用ヲ成ス
ハ無之今相用可然時ヲ以テ清國彼ノ為ヨ
脆ク敗衂仕彼レ大ヨ志ヲ挫キ本邦ヲ戰法
唐國ヨ相同ト申儀ハ素ヨ承知致居候ヘ共
清國ヨ相勝算ヲ握定仕候見極ヲ以我好ま
ヲ呵テ交易等ヲ願ヒ其盛否ニ隨ヒ或ヲ不敬
ヲ働キ我ヲ兵端ヲ開候ヲ希望仕迄ヨ戰爭
ヨ及掠奪ヲ仕ス趣意ニ而実ヨ可憎事ヨ候共

海舟書屋

我滞兵其憎ヨ不堪ト雖テ我ヲ手ヲ出ス時
ヲ彼ノ術中ヨ陥候姿ヨ候間此所ヨ御工
夫第一ス後ト奉存候譬ハ彼ノ術中ヨ陥候
ヨテ我ヨ勝算ヘ有ス候得ヲ聊心配仕候儀
ハ無之候間海防向ヲ全備ト申ニハ
有ス間敷其所ヨテ夜合戰ヲ始リ候得ヲ其
節限リ事濟ノ申像ト自然可被思召ト雖計
ヲ以兵中ス左様ス儀ヨ無之候ヘ共四五年ハ
休息難相成左ノ時ヲ確ト見留候ハヽ勿論糧餉苦ス儀
ハ如何ヨ有之哉ニ恐ス候ヘ共三年ス蓄ヘ有之候

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

御向吉有之間敷哉常ニ勝り候儀ニ候
城よは攻城ニ器械相整攻のミより外如く當今
士氣も振起仕槍刀ニ枝ミも練熟仕候ニ付是
にて急度時よ引受可申様被存候ニ而愚
見ニ申候如く夷狄を夷狄を防ぐ術盛よ無之
而は難相成候ニ付當此長と彼ニ短と比較仕候ニ
を定免候ニ而は畢竟是は皆紙上ニ論よ候生ニ而水戦
よ至りてては攻城よりは甚く急接難相成時
者短兵勇氣も施ニ術ニ而委曲實ニ我兵を失
ひ候ニ而ハ如何ニ而ハ殘念ニ次第よ候ニ而間

海舟書屋

何卒活全備相成候ニ而ハ遂ニ引延よ相成候ニ付採仕候
自然一戦ニ後よ至り半途ニ而兵を納へ候
様ニ事ニ至り候而者御國體を失ひ候外有之
間敷ニ付存候ニ彼西洋之砲術陣製戦法皆一國
一流よ而國家之為よ力を盡し戦闘ニ候ニ
戦後よ至り候得者其非を相改專ニ精究仕候
間命令も能行届万人一心とも可申ニ付神
武ニ御國ニ而國家ニ安危よ係る候ニ者置て
不論只自己ニ門戸を爭ひ身ニ利害を以可否
をなし料簡も區ニ有之諸事研究行届候様ニ

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

若不奉存候本邦陣営之躰凡於長崎表見分仕
候儀ヨ有之畫は數百之旌旗を建夜は數千之
燈籠を懸起し勢衆軍威を示し軍艦には旗吹
貫弓砲數梱等備付列船嚴整之形勢は恰も源
平水戦之画図を見るが如く我見慣候所ゟ見
受候時若至極武威盛ある様ヨ相見候得共彼
之砲戦実験之眼ゟ見候時は却而おのづ
有之趣ヨ相聞候間通詞を以相尋候時を御武
備感心仕恐入候なとの儀を申候得共竊ヨ相
探候時は旌旗燈籠盛なる丈ケ美事ヨ候得共大

海舟書屋

砲放射照準之便に宜敷列船陣形をなすとい
ふとも一朝一夫之ために用を受候時を万衆共ヨ沈
没致し弓は西洋古代ヨ棄て火縄鉄砲戦陣に
不利皆棄て用る事なし弓ある國は未た戦理
開けさる國と相嘲り候ゟ始而墨場の製
造大礮營製等之儀ヨ至る迄専ヨ見聞致候て
當本邦は有用を捨て無用を飾り実用ヨ力を
盡ス盡ス為ニなき之ヨ候ゟ冷笑致候ゟ由ヨ候
空敷軽侮を受候理無之ニも候ゟ海發旌旗燈
籠を以勢衆を示し軍威を張候は孫呉時代火

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

器無之時ゝ策ヲ施ス所以只今にていい遠く隔テ
とも砲丸飛来或い遠目鏡一本有之候ても敵
之虚実衆寡相分り候と申ものに候而ハ闘戦
撃之術ヲ長し人ゝ勇猛といへ共水戦に至り
候てハ勝算覚束候事存候兵法ニ使敵人不得至
者害之也と有之由ニ候得共彼を害するの器
無之ときハ彼の畏るゝ処無之候而ハ申候如く弓矢之力不
ハ未た完備ニ仕候南塘も東
強於寇而欲藉以制勝と
ゐハ猛烈ゝ大砲数十門
海舟書屋

ゝては百石積ゝ船は五百目筒を限るあと教
是以寛船厚薄も存不申候間貴之力試致し候儀
ゐも無之只術者ゝ考而已ゝ候ニ候間今
之如く南蛮話も無之候ニ付滑ゐ砲術弥相開候時
者弥以患は無之事ニ相成の申迄無之候ゐ付
仮令ゐても合戦ニ相成候節ハ相整居候
時ゐ仮令交易御免ニ相成候ても差止候儀は
仮時ゐ出来可仕ニ候ニ付何分兵端相開ゐ申
様取扱候用意向ゝ候ハ当時ゝ候ニ付
五年相送り申候ニ付ては思召ニ候ニ付

出来採仕度奉存候

一蛮夷互ニ有無を通し交易仕候ニ彼國之習
俗常と仕候儀ニて此品を以彼之品ニ易へ其
利潤を互ニ事ニて敢て一國之利を貪り候と
申趣意ニ無之交易は各國民を撫育致候為之
儀ニて子細ニ之事と手軽ニ相心得候儀ニ候
座候ニ於ては御深遠之御趣意も有之御許
容難相成哉より甚敷翻譯仕候意味ニ候ニ於
彼等本邦之産物多少有無要求次第ニ相心得
不申候ハは有之物を以與へさる様ニ相心得

海舟書屋

憤怒を抱き候儀ニ只々交易御免之一事ニ而
已相拘り居候儀ニ候ニ付何卒御免ニ
ル相成候方高法取組代り物ニ可相成物産等
要求承知仕候ニ採相成候場合ニ至り候ニ彼
等相好候品も無之候ニ付却而後悔可仕候ニ
候ニ候座候ニ付遠洋を乗渡交易仕候儀ニ候ニは莫大之
利益有之品代り物ニ受取候様無之ては甚詮
無之次第ニ候座候ニ阿蘭陀方ニ於今迄無滞入津
仕候ニ用相勤候儀も全く銅御渡ニ相成候故之
儀ニて自然銅御渡無之時ニ至り候節ニ

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

外に利潤之可相球品一種も営申産業間決而
渡来仕候儀無御坐一船仕出候者不少雖
費も相懸り候儀に付格別之利潤無之而は遠
洋渡来仕而引合無之趣い為而兼知り仕候然
る處アメリカロシヤ等交易奉願候ニ付右
交易御許容之有無若恐本邦治乱両端に相
係り候儀ニて當時に至り候而者古之夷狄之
無御坐候而御小事ニ及ひ不容易儀
と竊ニ心痛仕候若彼之願之通御免無之節者
恐らく大儀にて相済申間敷必是より兵端

海舟書屋

を開き永遠御世話ニ不絶事に至り不幸ニ生
霊を水火之中ニ陥れ國家ニ安危ニ於霊外に術無之者是
痛仕候程之儀に御坐候而
此事に奉存候得共交易一向ニ候者凡彼地之
風ニ習ひ手軽ニ御取扱ニ相成候様仕度其手
軽ニ取扱ニと申儀ニ別にて外無御座利潤無
之代り物に而者速ニ引合不申彼ニ退候事
に相成候而御先御理解被仰渡候而其上にて交
易御願候儀ニ御免ニ積に
彼思召度而三季商賣仕候得は必彼ニ退候

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

事に候座共其理解と申大意共凡右之意味よ
仕度奉存候本邦よりおいて諸國交易御好無之
には無御坐候滞留御國小子にて舶来之貨物
國中潰し高も限り有之又此國よりて産する處
之産物甚少きを以代り物に御渡可相成品無
之に付ては交易御取縮に相成候外無御
座依之注古諸州より渡来致し交易を御免よ
相成候代り物は主として金銀を以御渡之外
相成候而は金銀出方無之處より銅を以
御渡よ仕候得も過分之出方多り候年よ至

海舟書屋

り渡方差支候處より阿蘭陀方古格五帝之法
をも以改銅半を減高貴に被仰付候程之
儀よ仕候得又潰方不宜故を以唐國より積渡
候品者阿蘭陀積渡を以差留られ阿蘭陀積渡
之品者唐國積渡を以差留られ是以同物相高
まざる為之御仕法にて畢竟御國小子にて
潰方不宜物相篤利潤無之時を交易之詮無
相立阿蘭陀人も心得居通候丁子三千斤を
一ヶ年交易之高と御定有之自然此高を過
持渡候節者過行之例格元買直段を以被

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

相減程之事に有之然る處銅之儀を近来之至
り必至と出方も御國用之差支に相成候儀ゟ
付猶御仕法ゟ改革之思召も有之に付御振柄ゟ
有之候得は阿蘭陀日根ゟ交易取組方御願被
得共其儀ゟ難被為及御沙汰ニ而異國交易之
儀ゟ專ら於長崎表取扱被仰渡候ゟ付而波地ゟ
罷越候國産諸品熟覧致し右直段出産之多少
等も委敷承知之致候ゟ又其國ゟ積渡交易可
致産物ゟ諸品名書並直段等逐一申立凡交易
之仕法豫而御定之様可致候に付交易之儀者

海舟書屋

互ニ國民扶助之爲之儀ニ而利潤等ゟ而ゟ難
詮立事に付當交易方之儀に付ては其節役人
ゟおゐて損益取調申立候次第ゟ有之候ゟ
以交易之仕法萬ゟ承知之上弥治定之儀再ひ
相願候ゟ極ゟ致其上にて雙方差支等ゟ無之
り被仰渡之通御許容之儀ニ而ゟ致ゟ先
方仕法組合再ひ御願被仰候ゟ而ゟ不苦
つ御ゟに交易御免之思召を以毎三季爲御
試御免可被爲成旨被仰渡に相成候ゟ極仕度尚
返翰被下候共是迄之御趣意を以被仰渡御

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

國産之品も委敷承知為致交易取組方義為試
候方永く國家之御為ニ宜敷覩候情も自然
と絶候事に成行候ニ付殊更仕法取組
試方に付而は年月も相送候ニ付其内には
海備充萬全之も相成候申然る上は交易御差
止之 思召之も御座候ハヽ何時ニ而も御差留に
相成候儀ニ候間其節ニ至り彼ら無端お開候共御防禦向行届之
上は敢而貪着仕候儀ニ無之候ニ付彼ら無理ニ
仕候儀ニ候ハヽ張國家之御損害永遠御為ニ宜
海舟書屋

御上策ニ而相成申間敷商賣之儀ニ付今日市中
小商賣も同様之儀ニ而品物代料自然と相場
も有之爭ひ候ニ而は實ニ利潤之多少ニ拘り候
儀ニ而利潤薄く有之節い彼ら退き候事に
相成候間然候儀ニ候ハヽ交易御免之成否
ニ至り候而ハ偏ニ公邊を奉怨候次第ニ相
成候間先年も申上候通ヲロシヤ蝦夷地を奪
ひ候如く法ニ過患を為ニ候事に成行候ハヽ必
定之儀ニ而蝦夷地方は捨置候而も容易ニ次第
ニ奉存候一ともニ近来ニては諸藩強盛ニ相成

ヲ以付國家始終ヲ御考ニ不宣儀ト奉存候ニ互
ニ産物ヲ取調ル不仕筈又騒擾ヨ相成自然存
亡ノ係ヲ揆ル儀ヨ候ヘハ産ヲ而者ヲ容易次第更
ヨ殲滅仕ヲトテ益熾ニ者相成ヲ共畏縮仕ヲ
儀ヲ無之産ヲ財ヲ左ヲ時ヲ永世御世話ヲ不絶儀
ニ御座候本邦ヲ産物多少有無ヲ相心得ヲ上
彼ノ望ヲ断ヲ節ハ窮理仕ヲ儀ヲ無之候間
永ク御安心ヲ場ヨ相成ヲ申事ヨ御座候
一右掛假ニヲ交易御免ニ相成ヲハ一國御免
ヨ相成候時ヲ其他筋ヨ相願ヲ申候又御免ヨ

相成不申ヲ而ハ相叶申間敷　左ヲ時ヲ際限
ヲ無ク本邦ヲ膏腴ヲ彼ニヲ被絞上ト存ヲ儀
ヲ可有御座候得共右掛ヲ次第ニハ無ヲ素ヨ
リ一國御免ヨ上ハ諸國願出ヲ者勿論ヲ儀ニ
而右掛和成ヲ滞ヲ猶更相好ヲ所ヨテ於本邦
右掛莫大ヲ荷物國中ヨ潰ヲ係ヲ無御座唐紅
毛ヲ荷物ヲ外ヲ商賈ヲ仕法ト違ヒ締賈締
賣ヲ御免ヲ者ヨ相成居ヲ位ヲ係ヲテ買持ヲ
ヲの無之ヲハ潰荷ヲ而已相掛ヲ儀無御座候
之此上ヲヲ諸國相願御免ヲ相成ヲ上積渡ヲ

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

品を格別下落仕り時
物に受取り申ものも無
之渡来致し候様申立
候間右様取計候儀も
通り為試御免被
念入勉強無
一異國互市之儀
法は不相離銅
者銅可相渡事に限り
説みて我有用
得共銅
唱候品
り類
右代り物には我の
救候薬種
候唐方に而
より産候珊瑚珠時計
貴と唱唐人

用之品を相渡候儀ニ付ては今を
以論ずる時ニ銅価渡方之儀等用ゐ事に相開候
得共二百年前白糸さへ出産之歩合ら彼ら
取寄等用ゐ砂糖も文化以来和製漸盛ニ相成
候と申程之儀取分薬種類之儀ニ一国ら性命
ニも相係る品ゆえ多人命を救ひ候儀ニ候へば
醫師ありといへども人命を相成候儀ニ候へば
阿蘭陀方之儀ニ交易主と相開候儀第一の御趣意にて右様有用之
動静申上候儀第一の儀ニ本邦ニ大切ニ候へば
銅海外ニ流出候儀ニ候へば

海舟書屋

思召萬民御救被遊候御趣意ニ候へば
右之通干戈を不汚永く平穏ニ相済候様
仕度奉存候

一唐阿蘭陀代り物ニ相渡候品ゝ銅相除候外都
而我無用之品を以相渡候儀ニ候へば彼国
ら可積渡諸品相弁候上は其内必御国益ニ
可相成品も可有之候ニ付向御国用ニ御相成
品のみ為積渡候代り物ニは我無用ら品を以
相渡候時ニ候へば全く良法ら交易と相成候儀ニ候
尚ニ向ら三季交易試ニ仕候ニ相成候儀ニ候

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

ゟ引續交易相願候儀ゟ候哉ゟ御
國益ゟ相成候交易ニ候哉ゟ彼ゟり渡来相
止候ハヽ御免ゟ相成候而ゟ御害ゟ相来候儀
者無之産物阿蘭陀交易仕法ゟ儀ゟ全ク注古
出銅過分ニ有之候砂ク法ニ而當時高價ゟ模
様ゟ相心得候ゟ往ク彼ゟり空船ゟ仕出候
而銅而已積歸り候様ゟ相成候譯ゟ相来候
儀ゟ候哉阿蘭陀ゟアメリカロシヤ等交易願ク候
右程能御取用ひゟ相成候方御為ゟ宜敷
高貴取組方持渡候品柄ゟ多ク候而ゟ御國益

海舟書屋

ゟ相増國中融通ニ
ゟ以候ハヽ相成且國中出産之諸品
ゟ以代り物ニ相渡候時ゟ無民生計ゟ基ゟ相
増殊ゟ藥種類之儀ゟ船来員數少ク候間格別
高價ゟ相成候所ゟり貧民容易ニ服用ゟ難相
成宜敷性命ゟ亡候ニ候ハヽ不少候間等民御救ゟ
御仁澤ゟゟ相成候ハヽ乱ゟ奉存候御通親ゟ好候
儀ゟ無御坐候ハヽ一應明細ゟ高法取組為御試候
方國家盤石ゟ安ゟ保候ゟ申譯ゟ相成候儀ゟ
御坐候ハヽ彼ゟ相敷候儀ゟ御坐
候ハヽ言語ゟ通シ兼候ニ付ゟ事ニ御坐候間如

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

何様之も其術施行申共得共夫等一時之粮
にて却る忽怒を相増孫兵を以怨を報ひ相
成候儀を必定にて騒擾之至り候節を和寇明
を侵し明人内應有之候如く御武威盛なる御
府内近き所といつとも恐怖悼懼所之も強
盗之類有之候ては如何成ふ所存者其虚に乗
候ふ弘も難量候処兵端相開候ては不容易御儀と
奉存候

一奸商米穀を夷邦へ渡密売仕候儀先年より不
絶風説之有之今以折々右様之風説之有之事

海舟書屋

實不相糺儀ニ候而ハ御座候得共内密ニ而異國へ抜
荷ハ表向異國ニ相渡候ハ弘國中之米穀共高ハ
減し候儀ニ候間右様之儀ニ候ハ弘相渡候時ニ密ニ相止一躰御國中之
取締宜敷奉存候利潤ニ迷ひ候者高貴人之
常ニ御座候ハ弘ハ奉存候犯罪厳刑ニ処し候儀ニ
不少儀ニ候得共有御座相糺候ハ弘ハ
申間敷事有ニ臨ミ候時ハ利潤之為ニハ成間
應仕候ハ弘難計儀ニ御座候間若米穀御願ハ
儀ニ御座候ハ弘御許容相成候方可然歟

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

と奉存候一二艘積受候石数も程知候儀ゆえ
御國用差支相成候趣ニ候共有之間敷諸
向造酒減少被仰付候ても差支無之儀と奉存候
仕候ても差支無之儀と奉存候殊更蒸氣船其
外便捷之船舶造製ニも相成候趣ニ候間其
方万一出羽より御國用差支ニも相成候節
者不取敢唐國之差遣し積取候儀も出来仕候
哉と奉存候

一風説之趣ニ而は石炭類産出候
處石数不相分其高よりも其儀ニも候庶
幾

共九州内出産も有之其外出産之國も有之
ニ付穿鑿仕候へハ此分出産之國も有之候
就本邦蒸氣船製造相成候上は必用之品ゆ
ゑ出産可相成哉之趣ニ候共交
易取組方最初之取極ゆえ其儀ニ付是非相好候儀
ニも候ハヽ當分之内ハ渡ゆ相成候而も
差支ニ候ハヽ御奉存候間ゟ右様之品
相渡候上ハ彼ゟ取寄候品も御國用第一之
品を取寄候事ニ候ハヽ其儀ニ候ハヽ

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

一外夷交易之儀に付而者後殃難計ゟと懸念仕
候者も有之候共二百年前之儀者本邦と
ハ事も不相開時にして其高貴ゟ向みも耶蘇宗
門信仰有之候程之事に候間所謂上ゟ好
む所にて愚民迷ひ候者最ゟ次第に増殖且
愚民を煽惑致し兵を用ひそして侵呑を計り
者彼の上策ゟ出候電にて我智恵ふ足我不備
法共可申哉或ハ伊斯把尼亜人呂宋国ゟ通商
して其国兵弱ゟ奪取へき
牛政ゟ覆ふ程ゟ地を偕ゟ終に国を奪ひ事な

海舟書屋

とを以異国通商を嫌ひ候ハ
ハ畢竟其国愚にして兵弱き故ゟ儀にて右様
欺図被致候得共本邦者武勇多智にして彼
ゟ謀計ゟ陥ゟ候儀を有ゟ間敷ゟ意とする
にも足らさる事に奉存候尤に
ハ武もあき国ゟ様ゟ相
ハ畢竟智もあく武もあき国ゟ様ゟ猶更敗衄可仕被存
候得共外夷襲来ゟ時者
先年ゟり究角妖法妖術等ゟ相恐候ハ
仕候得共一ゟ実証ゟ無之候得共妖術を以勝を制
し人ゟ国を奪候儀自在成ものゟ由産候ハ

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

戦船火器等に億萬之資財を費し專ら護衛之
術を撰ひ武備不怠樣仕候儀專有之候處
妖邪之教理學相開候而は都而絶盡候趣人心
迷を取候因陋之出候時は火取目鏡之如
遠目鏡にて遠き
を望候而も人之相驚相恐候由是のみに限り
候儀にも無之候得共蘭學お開けは以
来之お模之儀之迷ひを取怪之候者も有之候お
以相考候時は有用之劍海外に拾萬之相
成候樣之儀專以渡來國通商之詳なより古

海舟書屋

に較候而は醫術其外諸物相開け御國益之相
成候儀も不少蘭學之儀も都而藝術之係り候
書而已にて術之このみ候者も有之候得共古より蠻夷之
差別なく其善なる者を取て本邦之用之
元候儀に有之城堡陣營之製も皆群夷之内より
有之候間外夷之諸術本邦お開候儀第一
之御國益に候處蘭學心掛候者は耶蘇
之妖說に惑溺仕候樣申觸候而は衆を誤る者
可有之候間深く御注意蘭學相開け御國益に
相成候儀有之候得共心得違仕不埒之者は一

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

人心漸及ぶ申却而聖賢之道を学ひ事ら倫道
を明ら仕ん大盗平八郎の如き凶賊も有之ん
候聖賢之教ゟ点情ゟ易らさるの如くゟ被存
ん蘭学を以邪道を導きされおと申儀ゟ有之候
数外寇防禦之儀を急今計ゟ限られ儀ゟ無之
候得共億万年之後ゟ急懈怠相忘ん儀ゟ相成申間敷
ん乃共戦艦之製火器之術陣制戦法ゟ彼と相
同一き時は彼の軍資を費し遠洋を凌き襲来
ん候ゟ全く彼ゟ損と相成ん係ゟ付観覧之情ゟ
永く杜絶防禦之秘決ゟ之ゟ止ん儀ゟ決而

海舟書屋

問先年愚見ゟ申述候心配仕ん候得共私式ゟ
微力に及ひ候儀ゟ無之候ゟ人情
にて他を学ひん候ゟ恥と仕ん候ゟ彼の仏国
みては他を学ん儀を国家之為力を尽し候者
と感賞仕ん儀にて彼ゟ諸国航海仕候善ある
その方之ゟ取て自国之欠たる
所ゟ補ひん交易利潤を貪りん国を富し兵
を強く致ん為之ゟ主意にして痛哭仕候
ん習俗ゟ無之候ん間他を学ん儀を恥と仕
ん儀ゟ無之候ゟ却而他を学不申を困陋と

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

侮共程之儀ヨ時世ニ於未聞夏變於夷ト語ヲ觧
申者も有ニ於漫其此語ヲ藝術ト儀ニ而ハ有
之間敷於阿諸國武備ニ係ル儀ヲ勿論何ヲ
博ク探索仕相開置度儀ニて本邦不慮ヲ御備
さへ相整居ル儀ヨ時世ニ於ハ如何ニも東和渡
来仕商賣御免ニ相成ル共後年ヲ患ル事無之
於阿我ノ御寛大ヲ以示シ彼ヲ感客ル為ニ
思召ニ而ハ試ヲ為ニ三季假ヨ交易御免被
仰付若ハ宜事ヨ被為ル何ニも共
節ハ差止被為成度奉存ル無用ヨ品ヲ渡シ有

海舟書屋

用ヨ品ヲ被入殊ヨ彼ノ強弱ヲ知ル一術ニも
相成猶交易利益有之ル事ニ候ハヽ聊ト雖も海
防ノ為ニ加ル候ハヽ御警衛弥出手厚
ニ行届ル儀ト奉存ル交易之儀ヲ御免被為
仰付ル迚御國躰ニ相係リル儀ニ無之候得共
万一兵端相開ル様ニ成行ル儀ニ候ハヽ多年竊ヨ憂懼ヲ懐ル儀ヨ
易次第是迄ヨ儀ニ而ハ実ニ不容
御座ル間不顧身分心付ル儘此段以書付奉申
上候以上

丑十月（嘉永六年）

高島喜平

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

交易仕法ニ大畧左ニ奉申上候

彼方國産何ニ而ニ品出産有之候ハヽ引いまた品柄相分不申候ハヽ仮令付差遣左究候ハヽ雑物ニ而ニ品ニ而も萬一交易取組ニ相係ニ至り候節ハ先以彼方産物且直段附等為書出候上ニ而是迄渡國ニ而捌方宜敷利益有之品ハ撰注文仕乗入方ニ而有出来奉存候事

但唐紅毛諸荷物ハ於大坂表諸國へ賣出候ハヽ付諸品捌方多分或諸方相好候品ニ而

海舟書屋

彼地ニ而ニ品等内ニ仕候ハヽ凡捌方ニ模様相分候ハヽ付

一彼方武備ニ相係候品ニ而種数ニ而ハ捌方ニ相係申候ハヽ付此ニ而ニ品ニ而も相顕ニ申候ハヽ代り物ニ而も買取候ハヽ而ニ品ニ而も相成申候ハヽ仮令代り物元買直段ニ而ニ品ニ而も割増ニ而ニ品ニ而も加彼方へ賣渡候節ニ而ニ品ニ而も申候

一彼國ニ而金銀過分ニ出産ニ而ニ品ニ而も有之ニ付ニ而ニ品ニ而も相開候間唐紅毛ニ而ニ品ニ而も下直ニ而ニ品ニ而も相賣候ハヽ而ニ品ニ而も申候

夫ニ而ニ品ニ而も相賣へ下直ニ而ニ品ニ而も相賣候ハヽ而ニ品ニ而も申候

一彼國ニ而金銀過分ニ出産ニ而ニ品ニ而も有之ニ付ニ而ニ品ニ而も相開候間唐紅毛ニ而ニ品ニ而も下直ニ而ニ品ニ而も相賣候ハヽ而ニ品ニ而も申候

小奉存候ハヽ付此節ニ而ニ品ニ而も雑物ニ而ニ品ニ而も為ニ而ニ品ニ而も持渡ニ而ニ品ニ而も金取入

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

其像ヲ付御國益ヲ相心得申ス筈ニ候得共吹替ニ而ハ御用金ヲ初
ト相見ヘ候ニ付申合候ニ吹替ニ而ハ御用金ヲ初
変ス所ニ而ハ其益相顕ス儀ヨロシカラス候
一於長崎表唐紅毛交易仕法ヲ以銅直段格別
引下償ヒ相立下直ニ御渡ニ而ハ御用金ヲ初
ヲ付彼ヲ以積渡ス諸品モ自國定直段ヲ引下
下直ヲ仕賣上ス儀ニ而ハ彼方ニモ元直段ヲ引
下交易ヲ初メ仕法ヲ改ムル時ハ此度申上
ル御試交易ヲ以銅御渡ス交易仕法無ニ而
及ル唐紅毛ヲ振合ニハ雖相成彼モ其國賣買

海舟書屋

之直段ヲ以為賣上是ヲ相渡ス品物ヲ以
ル時ハ通例直段ヲ以賣渡ス相渡ス品物ヲ以
ス時ハ積渡荷物拂立ヲ仕法ヲ以元代引殘ヲ
條金全益金ヲ相成申筈
一此方ヲ以代リ物ニ可相渡品ヲ以ヲ別紙品
立ヲ内ニて可相好品ヲ以賣渡ス申積右品物直
仕ノヲ相成御渡ヲ相成御拂立此者ヲ以申儀ヲ行届申筈
渡ス間賣込高人株ヲ以立此者ヲ以役所ヲ為和
納ス上彼方ニ相渡ス品ヲ以ヲ或ハ高人ヲ以直賣
迄ヲ為致彼方元代ヲ引合高人方ヲ以仕掛役

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

所ゟ代金相渡ス手續ヲ仕ス而ハ不然筋ヨ

出産ス

一商人ゟ賣込ス義ハ廉直ニ價ヲ仕ス様申諭
候ニハ市中賣買二割ノ利潤ヲ得ス品ヲ株式
之冥加トシテ一割ノ利ヲ以役所元ゟ相納ス
様仕ス役所又一割ノ利ヲ加彼方ヘ賣渡ス
而モ可然或ハ女株高人直賣ニヨ仕冥加雷役
所ヘ相納サセス様仕ス而ハ不然此分ヲ役所
諸雑費ヨ相減ス申奉存候

一右様ニ仕法ハ阿蘭陀勝ゟ高賣ニ振合ヨ准ス

海舟書屋

儀ニ付彼ヨ格別之利潤無之當方ニおゐても同様利
潤薄ス滞ス持渡リ品柄ニゟリ損亡ノ利潤相増ス
儀ニ御座候

一阿蘭陀交易之儀者出渡ニ相成ス銅代金格別下直ニ
御渡相成ニ付年ニ獻上物仕並ニ奉行所初メ八朔
禮物等差出ス古格ニ御座候ス滞ス當節ニ儀者金別
段之次第ニて交易仕法モ違ス儀ニ付一切右等ニ儀
ニ御座候

一阿蘭陀船一艘高賣仕ス元代七百貫ト相立ス内獻上
物並進物八朔禮物ニて相唱品ニて引去相殘元代六

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

百六拾五貫目餘と相成申候此處ニ銅並樟腦を以
四百六貫五百目分仕拂申候得ハ猶相殘貳百五拾
貫目餘有之候得共是分ハ阿蘭陀定例差出物
並在留中之諸拾荷ニ差引勘定相濟申候右元代六
百六十五貫目餘之分拂立ニ相成候得者凡四拾五割之
益ニて貳千六百拾九貫目餘全く益金と相成
申候然ル處今度新規商法相立候者銅
相渡不申候ハ付阿蘭陀同樣之元代よ
仕荷物為積渡候而着代り物ハ可相渡品
無之候得共凡半高五千両之元代と仕右
拂立出割之儀ハ阿蘭陀方四拾五割ニ當を十
割之益と見積仕候得ハ猶五千両之益と相成申
候随而彼者船一船五千両位荷物積込渡来仕
候而者迚も手當ハ合申間敷ハ被仰察候
強而獻上物ニ而ハ仕候節ハ其品柄ニよりて
而ハ諸色取交御調ニても被差加被下方ハ
相成候而ハ然哉奉存候
一自然於長崎方交易御免ニ相成候ハヽ通詞等
別段ニ増方ニ相成不申而ハ可然阿蘭陀通詞ハ
兼勤故 御付ハ然哉奉存候自然右樣ニ交易法

海舟書屋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

に而弥長久も可仕事よ而庶
儀は多人数者ゟ右ゟ向ゟ
労ス者も出来ス向右ゟ内ゟ
御付無勤仕ス而も不然励
ゟ上ゟ諸出役警固向ゟ
儀にも不有出来右様ゟ
柄も有之ス係ゟ付是等
節と奉存ス

一代り物ゟ相渡ス品ゟ内
樽物計ゟ儀ゟ而銅相渡ゟ
物無出来ス而究而石炭
ゟ有出来ス出産ゟ高ゟ
御渡に相成ス而も不然
一御國産諸品諸國ゟ産物相集り居ス儀ハ御當
地ゟ限りス儀ゟ付万一代物見ス事有為見ス儀
も出来ス節ハ出地遣滞船中為見置ス方可然
右ゟ内には雑物に而窓望ス仕品も不出来
哉ゟ奉存ス

一阿蘭陀船ゟ儀ス凡六月下旬ゟ至り八津仕九
月廿日湊出帆仕ス滞共十月中旬迄ハ沖滞船

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

仕自然アメリカ等打長崎交易御免に相成
候儀に候座候はゝ二三月以入津仕六月迄は
出帆仕阿蘭陀滞船中と日時と不相成様仕度
奉存候
右之波方品立等相分り申候而者筆紙
不盡儀に候雖申上候間先以交易取組と大意荒増
奉申上候以上
二月
高島喜平

海舟書屋

秋帆高島先生墓表

陸軍大将二品大勲位燾仁親王篆額

先生名茂敦字子厚別字舜臣通稱四郎大夫秋帆
其號也祖籍長碕為地名族世襲町年寄先生夙抱
大志讀書講武服官政廉而勤以長碕會所調役頭
取管理清蘭互市事務兼辦防海事務嘗以地控外
藩宜修邊備請設火器多貯彈藥議格而不行遂散
私財購白忽加炯諸礮置其家就洋客知兵者問以
用法又延譯士講究洋文兵書傳其步兵隊制歲時
率諸吏門人演習之天保十二年帥府偶聞之召觀

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

其技命於城北德丸原地試演先生應之五月九日
率其門徒戎裝登場整列鎗隊聽令開砲一進一退
倏忽如風士庶駭嘉稱為千百年創觀爲帥府賞進
與力格於是如江川英龍下曽根信敦等並為門下
及先生榮遷也班壓同列其福田某門地故高心懐
不平植私黨以相抗磯民本莊茂平次者嘗遊江戸
為町奉行鳥居甲斐私人時還鄉里因來見曰如君
功業賞不酧勞僕近得出入權貴門請為君籌開議
先生正色叱曰家世荷國大恩夙夜圖報弗遑安敢
黨緣求非分耶茂平次慙恚而退去觀福田氏心望
先生以言激動福田深相結納孚餉遣之先是磯地
有火延及先生故家修小島鄉別業而居地據崇岡
上築高樓繞以石牆鄉人瞻之目為小城茂平次自
磯返江戸會甲斐得寵於老中水野越前守言無不
聽因言磯地隱密事盛稱福田氏材而諸先生以其
搆城招客講兵鑿私財購軍火志不可測宜早圖之
甲斐遂以進讒老中授意長磯奉行逮先生父子下
於獄時十三年十月事也磯中諸吏凡出入其門從
事者皆被執為罪人翌年二月一併押解江戸收禁
分付老中若老寺社奉行町奉行勘定奉行等五府

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

究治先生経五府鞫訊竟無證左其各問吏承權貴
意不肯為白其冤銳意羅織致先生将不免適鳥居
氏積姦暴露褫職下獄茂平次亦被逮然先生冤猶
故初長碕譯士某干例禁私買清商物法當斬首先
生憫其為細事入死力救釋之吏尋此等注事成先
生讞交安部侯収之軟監嘉永六年六月亞美利駕
國遣使舩入我浦賀闕固請互市不報變且莫測奈
昇平久武備大弛論者謂乘此時盍新兵政是月官
名先生既至諮以外國事情計其在縲紲已十二年
矣江川英龍以韮山代官無掌防海事務乃延之參

海舟書屋

謀軍政因請于官盡雪前者冤枉先生疏陳時事殆
累萬言其大意稱清國道光粤東之役水陸之戰不
能獲一勝仗發帑乞和國以羈縻臣恐皇國或将有
相類者自元和偃武後兵事悉為華法雖永祿中朝
鮮之役始傳火器其用未能大顯不過授之步卒殫
量三錢至一両止演射之場僅可四十五歩無隊伍
無節制古法五十騎為一隊并僕從凡千人日耗貲
糧當戰者不過半如洋人則千人千鎗況我鎗數不
及彼多利害瞭然至我水軍之制尤屬無謂畫張旗
幟夜列燈火弓戟森立號為戰舩不知遠鏡一出疑

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

兵無用若徒為華飾是揭標而待彈耳我舶載百石者安礮一門其彈量不過五十兩洋舶一舶裝巨礮數十門火力強弱可見今不及早一變兵制講究火技用備對敵清國之鑒殆不遠矣故不可不亟貯火藥鍊硝石造艨艟築礮碉又不可不講格致之學為諸科淵源也如論互市則云歐洲多航海以貿遷有無叩關固請拒之未為公道不若暫准所請量予通商內修政事外廣見聞取彼所長資我富強國家自許清蘭來販經二百載未見有害即外諸國不過如此時人未諳外情搢紳介胄愈深疑忌決意鎖國先

海舟書屋

生獨排衆議倡之帥府頗嘉納焉而不能盡用其言也時患有邊警士大夫皆倉皇講火技江川及下曽根二君門人日益加多而先生愈見重於世擢講武所礮術師範役秩一百石進小十人格給十一口糧又進武具奉行格加秩一百石并二百石後帥府將以先生列布衣格議已定未及行慶應二年正月十四日以病卒享年六十又九歲葬於駒籠大圓禅寺賜賻金若干子男二人長名茂武號晴城次忠功號適齋繼父松氏孫男一人曰茂巽茂武擢講武所教官又遷大礮差圖役茂巽亦試講武所步兵教官後

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

遷語學所英學句讀教授仁何茂巽病疹俄卒年止
十九歲及帥府修上洛之典茂武當扈行會有疾輿
而上途撼頓益劇至京師而卒年四十四歲先生乃
養福田重固弟茂德為繼嗣茂德仕朝廷為陸軍中
佐在熊本值土寇起殞命茂德有子二人尚少先生
之墓未有文以表之而門人輩熟知先生事者漸少
不及今記之恐或湮沒乃述以碑令後人知今日火
技兵制實創先生而如它言行不悉録也

明治十八年乙酉十一月

元老院幹事正四位勲三等細川潤次郎撰

海舟書屋

長碕吉田晩稼書　井竈泉鐫

右篆額ニ掲ル火技中興洋兵開祖ノ八字ハ嘗
テ福山閣老ノ秋帆ニ授ル呼ニシテ秋帆深ク
コレヲ榮トシ刻シテ書畫ノ印章ニ用ヒタリ
ト云

嘉永二年己酉閏四月英國ノ軍艦下田港ヘ來
航ス節度情意雜測トシテ都鄙共ヨリ人心不穏ヨ
付江川太郎左衛門ヨリ彼地ヘ罷向ヒ彼ヲ諭シ
テ速ニ出港致シ候旨ヲ取計ヒノ事ヲ付太郎

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

左衛門直之出役して彼地より小船を乗
付先つ通弁ら者をいたして地方より人民十五万
を支配する者罷越其時者彼地職務を執り殊之
行以下彼と應接致其都而ふ行屋旨為て心得
外軽蔑致す故談判都而ふ行屋旨為て心得
居り也前所管之土地十五万石より付斯くい申
遣故像まて右ら帰府し上呉旨を生勘へ届出
ありと右を以英艦ら長迎ら礼殊ふお手篤
く椅子ら上席ら据へて取扱方外ふも鄭重
ら有之其外國人ら接をるら当り大郎

海舟書屋

左衛門平生贋書ら風ら引替り自身錦繍之野
袴陣羽織黄金作りら大小刀ら代家人何ふも
築爛之袴新調ら割羽織を着へ壮観人目を驚
から其上太郎左衛門の状貌雄偉音聲高朗ら
て應對明弁ら付一段艦中ら敬礼を増し申ら
彼ら昭り物取ら扱ふ芸相断り然して彼の
望ら肉類い送り遣し懇切ら取扱國憲を申諭
し故ら付彼も氏の威風誠實ら感し不日ら出
港致し此時ら当り都鄙皆其處置い盛事ら
りと申ら伊豫守板倉勝明安中城を太郎左衛門ら

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

書を贈るの文に云

僕家臣渡邊顯者學擊劒於故岡田十松有與
明府同門之誼亟稱明府之為人勇且武又聞
往年甲州飢民之變明府處置頗得其宜輿人
以為快僕心窃景仰爲
我邦開闢以來未嘗受蠻夷之侮者以武備盛
也　神后之征三韓北條氏之鏖胡元海外至
今震懾而豊臣氏朝鮮之役先儒或以為黷武
以僕觀之殆不然方今洋夷猖獗蠶食五大州
而未嘗擾我邊陲者豈非征韓餘威所及耶雖

海舟書屋

然昇平日久士氣萎薾武備漸衰不可以古律
今也而洋夷之出沒邊海亦前代未嘗聞如今
日也前日浦賀之滯舶下田之上陸使人髮指
聞爾時明府躬親上夷舶詳察虜情勇氣凜然
不可犯虜恐懼遽解纜而去都下以為盛事矣
僕窃嘆曰古人所謂白刃交於前視死如歸者
明府實其人也歟抑古夷狄者　神后豊公而外鄭
我邦之威風播於海外者盡力死而後止有諸葛孔
成功之於明季鞠躬盡力死而後止有諸葛孔
明之風成功父芝龍降於清而母田川氏死節

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

蓋父則彼土之人成功與毋則
我國之産氷炭相反如此明府不惜千金之身
慷慨赴夷舩威懷無施外儀醜虜之侮内使天
下之士興起其功可謂偉矣僕未嘗接風采叩
云々者鄙心實有不能已者爲於是乎使顯呈
尺書於左右且附以家刻成功遺墨二種伏乞
不罪僕之唐突爾後辱下交則幸甚時惟新秋
陰晴不常伏惟千万自愛不宣

七月三日　　板倉勝明再拜

縣令江川君案下

海舟書屋

安政元年冬江川太郎左衛門疾ニ罹リ於靈公
務繁劇ニ付強テ下田宮島戸田其外へ出張致
シ夫ニ憂分ノ上韮山へ帰リ纔ニ二日間病氣
ノ爲メ床ニ付居ル處江戸表ヨリ頻リニ徴状
到来ニ付苦悩ヲ忍ヒ同十二月十三日寒氣ヲ
犯シ箱根ノ積雪ヲ越ヘ同夜小田原ニ宿リ其
夜ヨリ病勢劇ヲ加エ同十五日著府致シ升得
共一日モ事務ニ與カル能ハス遂ニ危篤ニ陥
リタリ

安政二年乙卯正月九日水府烈公坦菴ノ大病ヲ

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

被聞及而勘定奉行川路左衛門尉ニ書状ヲ贈
ラル其文ニ
江川大病ノ由傳聞當時ニ在テハ一方之長
城為國家全快相祈及序モ有之候ヘ宜敷
致聲頼入及也
又烈公ニハ川路氏ニ傳聲ヲ頼ミ候而已ニテ
ハ猶心安カラストテ更ニ藤田東湖ヲシテ齎
藤篤信齋ニ書ヲ贈ラシム其文ニ云
拝啓扨モ蓬山縣令去ル十六日極メ重病ニ
被相成及由而同意不堪悲之至存候早速老

君而内聽ニ入及處実以而悦惜被成候右不
快不容易由而傳聲去ル九日川路司農ヘ而
直書ニテ縣令ヘ而傳言而頼ニ相成及由之
處定而最早而病苦ニ而而分リ被成兼及候
欤ト推察仕及扨縣令重病ニ付而ハ跡ノ而
處置其外甚而心配被成及尤而嫡子ハ見習
被仰出此段ハ而安心ニ及得共夫彼而家
来中噂ヽ心配之事ニ可有之仍而委細之
模様而内ヽ先生迄宜敷相伺及様内ヽ被命
候間近日拝面而咄有之候得共先不取敢以

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

書中得御意候早ゝ

正月十九日

執政阿部勢州坦菴ノ病氣ヲ患ヘ屢ゝ侍醫其ヲシテ來診セシメ其登營ヲ待タレケルニ遂ニ其甲斐ナキヲ嘆キ喟然トシテ曰嗚呼惜夫太郎左衛門ヲシテ一日登營ヲ得セシメハ勘定奉行ノ命下ル可キヲ天命ハ云ヘ生前ニ榮命ヲ聞カシメサリシコトヲトテ其官職ノオト徳トニ副サルヿヲ深ク嘆カレタルトソ阿部勢州坦菴ノ偉業ヲ追思シ和歌ヲ詠シ被

海舟書屋

吊

空蟬ハ限り去てあれ真心をたてし勲を

世〳〵よ朽せし

初メ嘉永六年米將ペルリー軍艦ヲ率ヒ始メテ入港シ都鄙騒カシカリケル折トカ老中阿部勢州坦菴ヲ職ノ儘ニテ任官セシメハ如何ト勘定奉行松平河内守ニ相談サレケルニ同人答ニ太郎左衛門ヲシテ任官セシメハ我職ニテ同人ノ處置ハ缺フマシト申スニ因リ其議ハ寢テ勘定吟味役格ニ進レタリ海防ノ議

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

起リシヨリ河州ハ屢〻其議論ヲ聞キ漸ク坦
菴ノ誠忠ト識量トニ感シ無二ノ思ヲ致シ其
没スルヤ深ク悼傷シテ云ク我レ不明ニシテ
英龍氏カ非凡ノ人タルヲ知ル丁違ク故ヲ以
嚮ニハ尋常一様ヲ以テ之ヲ遇セシヲ今我カ
不明ヲ悔ユルモ泉下ノ靈ニ謝スルニ由ナシ
不如其嗣子ト親交シテ我丹心ヲ表センニハ
トテ其英敏ヲ見ルニ子ノ如ク如何ニモ親切
ニ取扱ハレケルトナリ
江川太郎左衛門ハ世〻幕府ニ仕ヘ伊豆ノ

代官タリ名ハ英龍字ハ九淵坦菴ト號ス享
和元年五月韮山ニ生ル為人沈毅膽畧アリ
幼ニシテ文武ノ藝ニ通シ風ニ海防ノ事ニ
注意シ火術ヲ練究スス又平生極テ儉素ヲ旨
トスト雖モ人民ノ疾苦ヲ救フ等ニ至テハ
貲財ヲ吝マス亦韮山ニ於テ多ク砲銃ヲ鑄
造スルニ職工等ノ給費其他一切自費ヲ以
テシ毫モ官府ニ仰カス洋學者矢田部卿雲
ヲ雇入ル、ニ己レノ俸給ノ内ヨリ十口ヲ
與ヘル等頗ル美談トスヘシ故ヲ以テ屬吏

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

モ皆一時ノ人材ニシテ濟々多士ノ稱アリ
就中外患警備ノ事ニ於テ鞠躬盡力少カラ
ス皆世ノ知ル所ナリ或人筒井肥前守ニ方
今ノ時勢外寇屢来テ我ニ迫ルモ之ニ應ス
ヘキ兵備ナシ奈何シテ可ナラント問ヒシ
ニ邦内ノ諸侯ヲシテ皆鍋島侯齊正ノ如ク
ナラシメ又旗下ノ人士ヲシテ悉ク江川太
郎左衛門其人ノ如クナラシメハ之ヲ掃攘
スルヿ難キニ非ストイヘル由水戸烈公其
病ヲ聞テ痛ク憂ヘ書ヲ贈リテ一方
ノ長城ナリト云ハレシハ評シ得テ當レリ
ト謂フ可シ

卓犖魁奇ノ士當世ニ用ヒラレスシテ其先
見豫言ハ常ニ狂妄視セラレ遂ニ困蹶坎軻
シテ其志ノ伸ヒサルハ古今ノ通嘆トスル
所ナリ吾邦文化ヨリ天保ノ間憂國ノ士或

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

ハ北虜ノ虞スヘキヲ論シ海防ノ忽ニス可
ラサルヲ言フ者歟トセス又泰西諸邦ノ駸
駸然トシテ日ニ開明ニ進ミ工藝器械ノ裝
明新奇ヲ極ムルヲ視テ惕然トシテ憂慮シ
蒿目怛中窃ニ之ニ備フルノ術ヲ求ムト雖
モ奈何セン在上者ハ皆鎖國ノ舊法ヲ執リ
毫モ之ヲ變通スルヲ務メス巨舶製造ノ禁
ヲ嚴ニシ内地ノ人海外ニ出ルト外國ノ人
内地ニ入ルトハ皆不赦ノ典トナシ苟モ事
ノ海外ニ渉ルモノハ隻句モ之ヲ言フヲ得

海舟書屋

ス於是慨世ノ士已ムヲ得ス之ヲ文字ニ托
シ當事者ノ一悟ヲ望ムト雖モ却テ禍機ニ
觸レ績ク拘囚セラルヽニ至ル高島氏ノ洋
式銃法ヲ上言セシモ當時監察ノ評議ハ迂
拘ノ腐論ヲ主張シ以テ擯斥セリ況ヤ從前
ノ砲家者流ナル者ハ其已レニ異ナルヲ嫉
ミ百方妨礙シテ排除セントスルハ恠ムニ
足ルナキナリ然リト雖モ開進自然ノ氣運
ハ到底止ム可ラス癸丑ノ後上下始テ大ニ
悟ル所アリテ大船製造ノ禁ヲ解キ又西洋

国立国会図書館 勝海舟関係文書 2-3

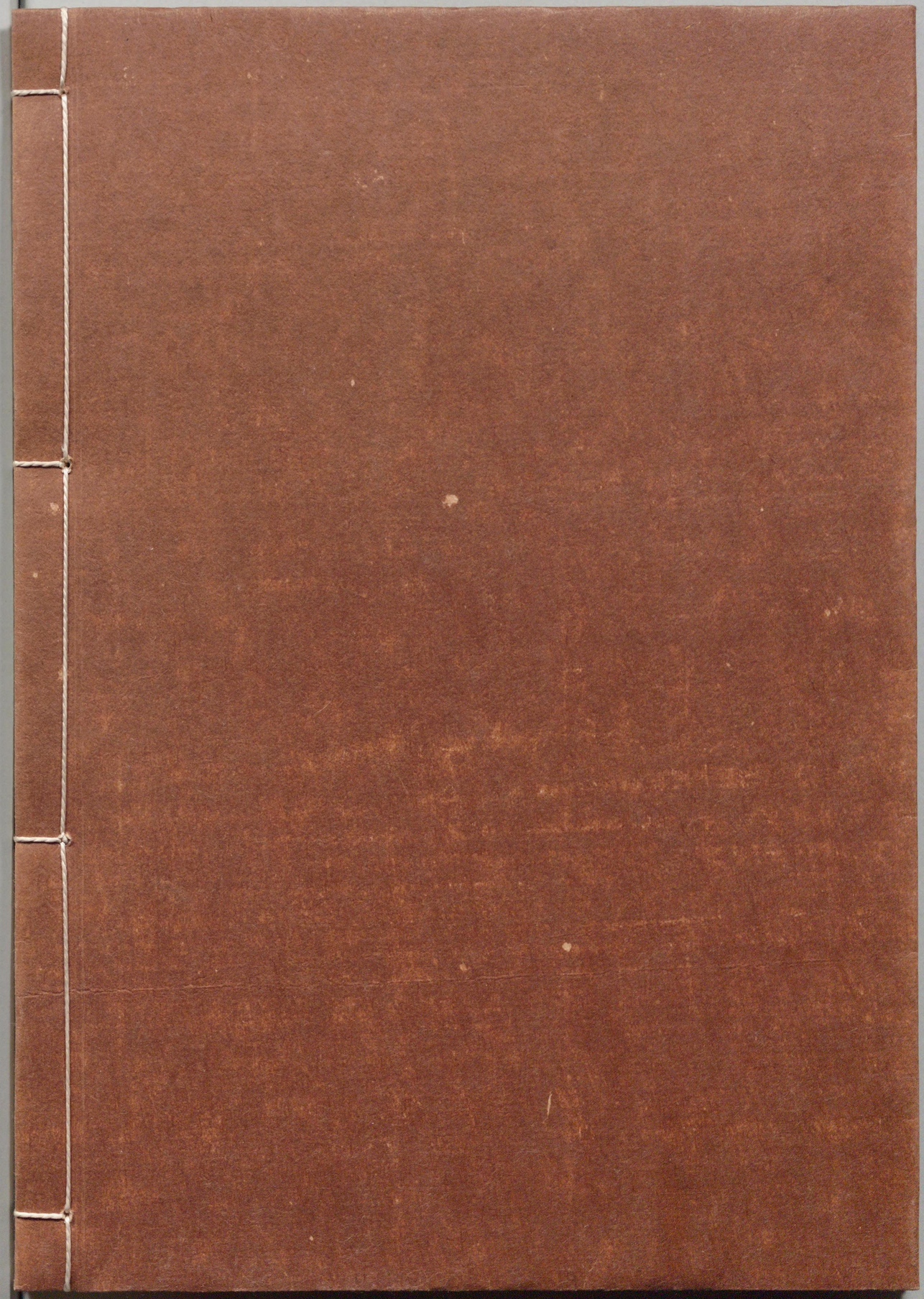
ノ銃法ヲモ盛ニ採用スルニ及ヒ愈彼ヲ知リ已ヲ知ルノ急務ナルヲ了會シ漸ク海陸文明ノ利器ヲ購入シ以テ我疆禦ヲ固クスルノ端緒ヲ開キタリ是レ高島氏先鞭ノ功ト謂テ可ナリ

陸軍歴史巻三

海舟書屋

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3

国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3



国立国会図書館　勝海舟関係文書 2-3